

愛知県美術館及び県が所有する作品・美術品等一覧

【運営権設定対象施設内に設置された美術品（愛知県美術館の所有）】

12 階 - 屋外展示スペース I



大地

作家名 : 加藤昭男 KATO Akio
制作年 : 1986年
技法、素材 : ブロンズ
寸法 : 275.0×175.0×100.0
分野 : 彫刻・立体（日本）
所蔵作品登録番号 : JS199200003000



カリブの女

作家名 : コルネリス・ジットマン Cornelis ZITMAN
制作年 : 1983年
技法、素材 : ブロンズ
寸法 : 189.0×90.0×90.0
分野 : 彫刻・立体（海外）
所蔵作品登録番号 : FS199000004000



円柱の構造

作家名 : 小田襄 ODA Jo
制作年 : 1988年
技法、素材 : ステンレススチール
寸法 : 208.0×56.0×49.0
分野 : 彫刻・立体（日本）
所蔵作品登録番号 : JS199200002000

12 階 - ロビー



花を持つ少女

作家名 : 舟越保武 FUNAKOSHI Yasutake
 制作年 : 1966年
 技法、素材 : 鋳造、ブロンズ
 寸法 : 160×56×48
 分野 : 彫刻・立体（日本）
 所蔵作品登録番号 : JS198900012000

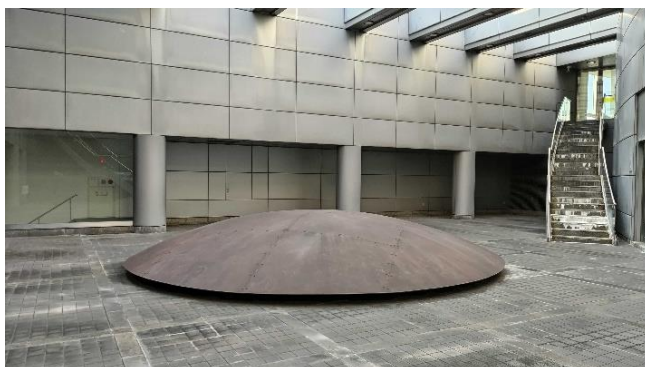
10 階 - 屋上庭園（中庭）



飛躍の瞬間

作家名 : アルナルド・ポモドーロ Arnaldo POMODORO
 制作年 : 1984年
 技法、素材 : ブロンズ
 寸法 : 150.0×180.0×210.0
 分野 : 彫刻・立体（海外）
 所蔵作品登録番号 : FS198900004000

10 階-屋外展示スペースⅡ



大地

作家名 : 今井瑾郎 IMAI Kinro
 制作年 : 1992年
 技法、素材 : コルテン鋼・鉄
 寸法 : 98.0×700.0×700.0
 分野 : 彫刻・立体（日本）
 所蔵作品登録番号 : JS199200001000

【運営権設定対象施設内に設置された作品（工作物として管理）】

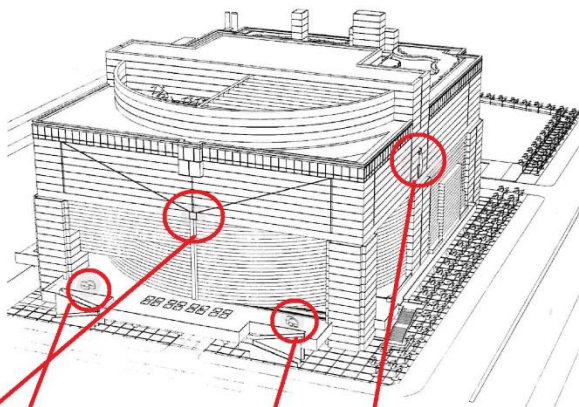
アートワーク

「芸術文化センター」の名が示すように、この建物は美術館、芸術劇場、文化情報センターの各施設から構成されている。ここでは日常的空间から非日常的な雰囲気の中にまで、アートを含む芸術との遭遇が生じている。そのなかで建築と一体的に計画したオブジェがある。オブジェはそれぞれの場所で、それ自体が作品としての価値をもち、空間と一体と

なりながらも、それぞれの存在を感じさせている。作品と空間が共鳴し合いながらさらに活性化し、息づく空間をつくっている。

作品全体を通してのイメージは、繊細な感覚をもち、透明感、緊張感を感じさせるものを置いた。その他の部分の展示

についても、建築空間のコンセプトとの統一性を考えて計画が行われている。

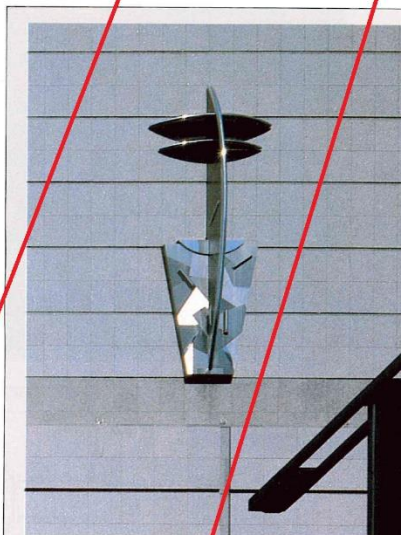


●各作品と作者のコメント



「交流」
伊藤 邦介

四角形の組み合わせによって明快に表現されたキーストーンは文化の交点を象徴し、その中に浮き出る県章は、発展を示している。県章は、「あいち」の文字を図案化し、太平洋に面した愛知県の海外発展性を印象づけ、希望に満ちた旭日波頭を表す。1950年、県下で第5回国体が開催された時に全国から募集、1600点の作品の中から選定されている。



「空へ」
望月 菊磨

愛知芸術文化センターは、新しいタイプの複合型文化施設を目指している。それぞれの専門機能を発揮するとともに、相互の連携と交流のなかから、新しい芸術文化を生み出していく可能性をもっている。レリーフの羽をひろげた形は、新しい芸術文化がはばたいてゆく場をあらわした。また、レリーフ下部の輝く小さな部分の集まりは、ここに集まる多様な人々、多彩な感性を表し、中心より上へ伸び上部で横に拡がる形はこの地の芸術文化がはばたき空へ昇るイメージを表現している。

「阿吽」 速水 史朗



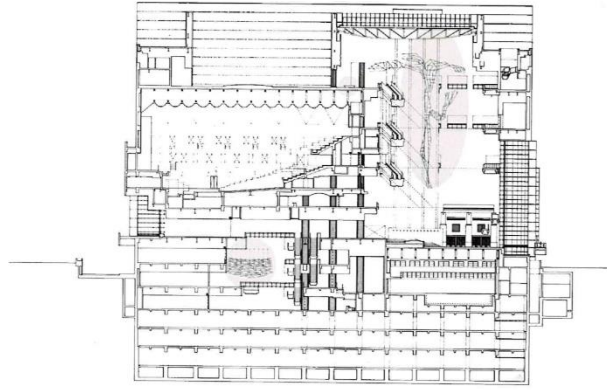
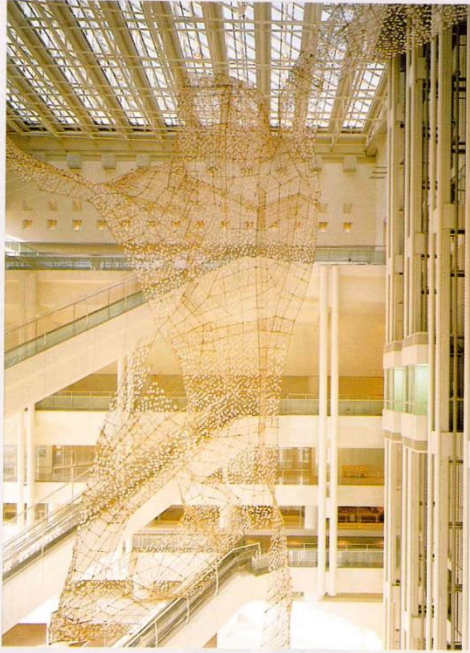
丸いやわらかい形体と石の肌合いは豊かで暖かく人々と触れ合うことになるだろう。また、その昔から日本にあった建物や地域を守るための「狛犬」や「仁王像」のような役目をもたせるために、右側の石彫は阿形であり左手は吽形となっている。またサイズはあくまでもヒューマンサイズである方が人々とよくなじむことになると思われるし、建築との対話も重要である。目立ち過ぎず、しかも心ひかれるものとした。

フォーラムⅠ吹き抜け

あなた
「私。」

北山 善夫

今、この空間にもだえながら空気を蹴り上昇していくフォームをとった。それはこの世界の歴史を語ろうとする無数の喜びと苦悩の声。それは出産時の産もうとするものと、生まれ出るものの声。この世界にエネルギーが注がれ、始まりが告げられた。その時から、一度も途切れることなくこの物語は語り継がれてきた。この膨大な物語は破壊と創造、産もうとするものの苦悩と生まれいずるものの喜び、世界と宇宙の歴史であった。物語の主人公であり、観客である私たちはいかなる産声をあげるのであろうか。聞いてみようではないか。



10階ホール



「水鏡」(みずかがみ) 藤江 和子

“新しい空間体験、その一瞬を感じる”ために、“永遠のうつろい、あたりの空気を感じる”ために、“気分の鎮静と緊張を整える場”のために、“発見や感動の余韻を味わう場”のために、それはある。張り膨らんだそれは、一瞬のフォ

ルム。ガラスが拾うあたりの様々——空や雲や樹々の自然のうつろいは静止することなく、千変万化にその表情を変える。人々は、表出するその一瞬の発見の中に、ベンチとのかかわりの特筆すべきその時空を記憶することになる。

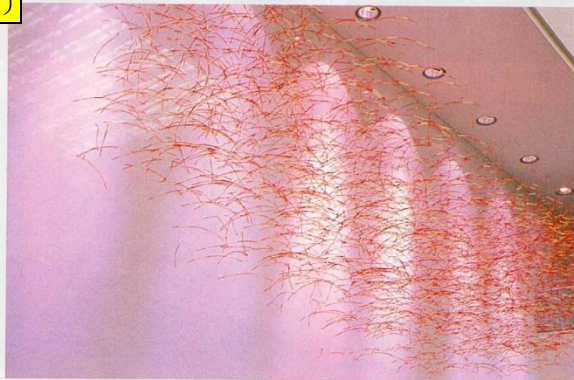
「AirFront'92」

中川 真木

フォーラムⅡ吹き抜け

人間も物質も、形あるものすべては、時の流れのなか、空気に触れ呼吸し、そしていずれ朽ちていきます。その空気の質感を大切にしたい……。浮遊するモビールの金のカーブ、そして色彩の放つエネルギー。色が走る……。光が走る。

私の手から生まれ出る形が、無限に拡がり、そして空間を創るのです。



【本施設内に設置された作品（工作物として管理）】

錦通南東、中央、南西（花崗岩製ベンチ）

